

第80回 定時株主総会 招集ご通知

2019年4月1日から ✈ 2020年3月31日まで

開催日時 2020年6月25日（木曜日）
午前10時（受付開始9時）

開催場所 東京都多摩市落合一丁目43番地
京王プラザホテル多摩
3階「白鳳」

（末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）

目次

第80回定時株主総会招集ご通知	P.2
株主総会参考書類	P.6
■ 第1号議案 剰余金の処分の件	
■ 第2号議案 取締役10名選任の件	
■ 第3号議案 補欠監査役1名選任の件 （添付書類）	
事業報告	P.21
連結計算書類	P.48
計算書類	P.51
監査報告書	P.55

株主の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本株主総会につきましては、極力、書面またはインターネットにより議決権行使を実施していただき、株主様の健康状態にかかわらず、株主総会当日のご来場をお控えいただくよう強くお願い申し上げます。

議決権行使期限

2020年6月24日（水曜日）午後5時30分まで

なお本総会における感染防止の対応に関する詳細は
当社コーポレートサイトにてご確認をお願いいたします。
<https://www.jamco.co.jp/ja/ir/stocks/meeting.html>



ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第80回定時株主総会を2020年6月25日（木曜日）に開催いたしますので、ここに招集ご通知をお届けいたします。

株主総会の議案及び第80期の事業の概要につきご説明申し上げますので、ご覧くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

大喜多 治年

経営理念

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

経営 基本方針

- 飛行安全の確保と品質の向上を図る。
- 航空業界を基軸に、技術力を生かした付加価値の高い製品およびサービスを提供する。
- 株主への還元、社員の幸せを目指し、社業を通じて社会に貢献する。
- 変化に柔軟に対応した企業構造および事業内容を追求し、顧客満足度と企業価値の向上を図る。

証券コード：7408

2020年6月10日

株 主 各 位

(本店) 東京都三鷹市大沢六丁目11番25号

(本社) 東京都立川市高松町一丁目100番地

株式会社 **ジャムコ**

代表取締役社長 大喜多 治年

第80回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第80回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

近時、新型コロナウイルス感染拡大防止のための万全の対策を講じることが政府や都道府県知事から強く要請される事態に至っております。この事態を受け、慎重に検討いたしました結果、本株主総会につきましては、適切な感染防止策を実施させていただいたうえで、開催させていただくことといたしました。

株主の皆様におかれましては、外出自粛や密集の回避が強く要請されている状況にも鑑み、感染拡大防止の観点から、本株主総会につきましては、極力、書面またはインターネットにより議決権行使を実施していただき、株主様の健康状態にかかわらず、株主総会当日のご来場をお控えいただくよう強くお願い申し上げます。また、株主総会へのご出席を検討されている株主様におかれましては、株主総会開催日現在の感染状況やご自身の体調をお確かめのうえ、ご来場賜りますようお願い申し上げますと共に、感染防止のためマスクの着用にご協力をお願いいたします。なお、書面またはインターネットによって議決権を行使いただく場合は、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示のうえご返送いただくか、当社の指定する議決権行使サイト (<https://evote.tr.mufg.jp/>) において賛否を入力されるか、いずれかの方法により、2020年6月24日（水曜日）午後5時30分までに到着するよう議決権を行使いただきたく、お願い申し上げます。

敬 具

記

1 日 時	2020年6月25日(木曜日) 午前10時
2 場 所	東京都多摩市落合一丁目43番地 京王プラザホテル多摩 3階 「白鳳」 ※末尾の株主総会会場ご案内図をご参照のうえ、お間違えのないようご来場ください。
3 目的事項	報告事項 (1) 第80期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件 (2) 第80期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)計算書類の内容報告の件 決議事項 第1号議案 剰余金の処分の件 第2号議案 取締役10名選任の件 第3号議案 補欠監査役1名選任の件
4 招集にあたっての決定事項	「議決権行使等についてのご案内」をご参照ください。

以 上

- 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- 法令及び定款第17条に基づき記載していない連結注記表及び個別注記表につきましては、インターネット上の**当社コーポレートサイト**に掲載させていただきます。
- 本招集ご通知においては、監査役及び会計監査人が監査報告を作成する際に監査を行った連結計算書類及び計算書類の一部を添付しております。
- 株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の**当社コーポレートサイト**に掲載させていただきます。

 **コーポレートサイト** : <https://www.jamco.co.jp>

ジャムコ 



議決権行使等についてのご案内

書面またはインターネットで議決権を行使される場合

書面による議決権行使



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただきご返送ください。議決権行使結果の集計の都合上、お早めにご返送くださるようお願いいたします。

行使期限

2020年6月24日（水曜日）
午後5時30分到着分まで

インターネットによる議決権行使



インターネットにより議決権を行使される場合は、下記の事項をご確認のうえ、行使していただきますようお願い申し上げます。

詳細は次頁をご参照ください。

行使期限

2020年6月24日（水曜日）
午後5時30分入力分まで

株主総会にご出席いただける場合

当日ご出席による議決権行使



当日ご出席の際は、お手数ながら、本招集ご通知をご持参いただくと共に、同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

※当日ご出席の場合は、郵送（議決権行使書）またはインターネットによる議決権行使のお手続きはいずれも不要です。

開催日時

2020年6月25日（木曜日）
午前10時（受付開始 9時）

(1) 代理人による議決権行使

株主総会にご出席いただけない場合、議決権を有する他の株主1名を代理人として株主総会にご出席いただくことができます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。

(2) 議決権行使書面において、各議案に賛否の記載がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱うこととさせていただきます。

(3) 書面とインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取り扱わせていただきますのでご了承ください。

(4) インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

また、パソコン、スマートフォンと携帯電話で重複して議決権を行使された場合も、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。

インターネットによる議決権行使のご案内

インターネットによる議決権行使は、スマートフォンまたはパソコン等から**当社の指定する議決権行使サイトにアクセス**いただき、画面の案内に従って行使していただきますようお願いいたします。

議決権行使サイト

<https://evote.tr.mufg.jp/>

議決権行使期限

2020年6月24日（水曜日）午後5時30分まで

※毎日午前2時から午前5時までは取り扱いを休止いたします。

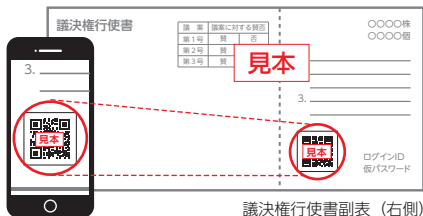
QRコードを読み取る方法

QRコードは株デンソーウェブの登録商標です。



スマートフォンの場合

スマートフォンでの議決権行使は、「ログインID」「仮パスワード」の入力が不要です。



議決権行使書副表（右側）

① 同封の議決権行使書副票（右側）に記載された「ログイン用QRコード」を読み取りいただくことで、ログインいただけます。

② ログイン後は画面の入力案内に従って賛否をご入力ください。

※上記方法での議決権行使は1回に限ります。

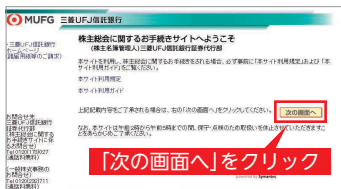
※2回目以降のログインの際は下記「ログインID・仮パスワードを入力する方法」のご案内に従ってログインしてください。

ログインID・仮パスワードを入力する方法



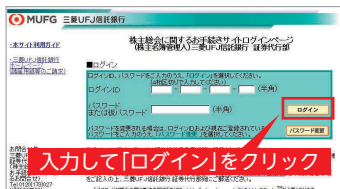
パソコン、2回目以降のスマートフォンの場合

① 議決権行使サイトへアクセス



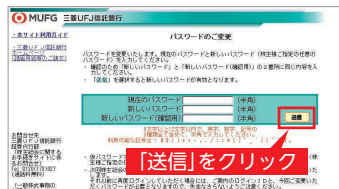
「次の画面へ」をクリック

② お手元の議決権行使書用紙の副票（右側）に記載された「ログインID」及び「仮パスワード」を入力



入力して「ログイン」をクリック

③ 現在のパスワードを入力後、「新しいパスワード」と「新しいパスワード（確認用）」の両方を入力



「送信」をクリック

以降は画面の入力案内に従って賛否をご入力ください。

※議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用（インターネット接続料金、通信料金等）は、株主様のご負担となります。
※インターネットのご利用環境によっては、議決権行使サイトをご利用いただけない場合がございます。

システム等に関する
お問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部（ヘルプデスク）

0120-173-027（受付時間 午前9時～午後9時 通話料無料）

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

第80期の期末配当につきましては、当期の業績及び安定かつ継続的に還元を行うとの当社の配当方針等を総合的に勘案し、株主様のご支援に報いるため、以下のとおりといたしたいと存じます。

1 配当財産の種類

金銭

2 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金 20円 総額 536,500,840円

3 剰余金の配当が効力を生じる日

2020年6月26日

第2号議案 取締役10名選任の件

現任取締役全員（9名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役10名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名	現在の当社における地位	取締役会出席回数
1 再任	おおき た はるとし 大喜多 治年	代表取締役社長	14回／14回 (100%)
2 新任	よねくら たかし 米倉 隆		-
3 再任	きむら としかず 木村 敏和	取締役専務執行役員	14回／14回 (100%)
4 再任	たどころ つとむ 田所 務	取締役専務執行役員	14回／14回 (100%)
5 再任	ごとう けん たろう 後藤 健太郎	取締役常務執行役員	14回／14回 (100%)
6 新任	かすや としひさ 粕谷 寿久	常務執行役員	-
7 再任	ふじかわ ひろし 藤川 寛	社外 取締役	11回／11回 (100%)
8 再任	のぐち としひこ 野口 利彦	社外 取締役	13回／14回 (93%)
9 再任	すずき しんいち 鈴木 伸一	社外 独立役員 取締役	14回／14回 (100%)
10 再任	わたなべ じゅいち 渡辺 樹一	社外 独立役員 取締役	14回／14回 (100%)

候補者
番号1 おおきた はるとし
大喜多 治年

再任

生年月日	1958年3月21日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	5,456株

略歴、当社における地位、担当

- 1980年4月 伊藤忠商事株式会社入社
- 2000年10月 同社ビジネス機能統合部長
- 2008年4月 伊藤忠インターナショナル会社機械部門長
- 2011年4月 伊藤忠商事株式会社執行役員 新エネルギー・石炭部門長
- 2012年4月 同社石炭・原子力・ソーラー部門長
- 2013年4月 同社プラント・船舶・航空機部門長
- 2015年4月 同社顧問
- 2015年6月 同社常勤監査役
- 2016年4月 当社社長
- 2016年6月 代表取締役社長、CEO
現在に至る

取締役候補者とした理由

同氏は、大株主である伊藤忠商事株式会社にて執行役員、常勤監査役を務め、経営全般にわたる豊富な経験と見識を備えており、当社社長就任後は、これを活かし、当社を代表して経営の意思決定及び業務を統轄執行してまいりました。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものです。



候補者
番号

2 よねくら たかし
米倉 隆

新任

生年月日

1960年3月31日生

取締役会への出席状況

—

所有する当社株式の数

0株

略歴、当社における地位、担当

- 1983年 4月 全日本空輸株式会社入社
- 2006年 7月 同社整備本部機体メンテナンスセンター業務推進室 室長
- 2008年 4月 同社整備本部機装センター整備部 部長
- 2010年 4月 同社勤労部 主席部員
- 2011年 4月 同社勤労部 副部長
- 2012年 4月 スカイビルサービス株式会社出向
- 2014年 4月 全日本空輸株式会社整備センター部品事業室 副室長 兼 整備センター部品事業室部品計画部 部長
- 2014年 12月 同社整備センター部品事業室 副室長 兼 整備センター部品事業室部品計画部 部長 兼 整備センター部品事業室部品計画部装備品チーム リーダー
- 2015年 4月 同社整備センター機体事業室 室長
- 2015年 9月 同社整備センター機体事業室 室長 兼 MRO Japan株式会社 代表取締役社長
- 2016年 3月 MRO Japan株式会社 代表取締役社長退任
- 2016年 4月 全日本空輸株式会社整備センター副センター長 兼 整備センター機体事業室 室長
- 2017年 4月 同社執行役員 整備センター副センター長 兼 整備センター機体事業室 室長
- 2019年 4月 同社上席執行役員 整備センター副センター長
- 2020年 4月 ANAホールディングス株式会社参与
現在に至る

取締役候補者とした理由

同氏は、大株主であるANAホールディングス株式会社の子会社、全日本空輸株式会社にて、上席執行役員整備センター副センター長を務めるなど、航空輸送業界での豊富な経験と見識を備えております。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、取締役として選任をお願いするものです。

候補者
番号3 きむら としかず 木村 敏和

再任

生年月日	1959年10月14日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	7,121株

略歴、当社における地位、担当

- 1980年 4月 当社入社
 - 2009年 4月 経営企画部長
 - 2012年 6月 取締役経営企画部長
 - 2013年 6月 執行役員 (経営企画・広報IR・総務担当)
 - 2014年 4月 執行役員 (社長特命事項・総務担当)
 - 2014年 6月 執行役員 (社長特命事項・総務担当 兼 総務部長)
 - 2015年 4月 常務執行役員 (経営企画部長、人事・総務管掌、CRO)
 - 2015年 6月 取締役常務執行役員 (経営企画部長、人事・総務管掌、CRO)
 - 2016年 4月 取締役専務執行役員 (経営企画、広報・IR担当 兼 経営企画部長、CRO)
 - 2016年 11月 取締役専務執行役員 (人事総務担当、CFO、CCO)
 - 2017年 4月 取締役専務執行役員 (人事総務管掌、CFO)
 - 2017年 12月 取締役専務執行役員 (人事総務管掌、CCO)
 - 2018年 4月 取締役専務執行役員 (人事総務担当、CCO)
 - 2019年 1月 取締役専務執行役員 (人事総務部長、CCO)
 - 2019年 4月 取締役専務執行役員 (人事総務担当、CCO)
- 現在に至る

取締役候補者とした理由

同氏は、経営企画及び総務部門での豊富な経験と知識並びにCRO、CFO、CCOとしての実績を有し、取締役として、重要な業務執行及び経営の意思決定・監督を行ってまいりました。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものです。



候補者
番号

4 たどころ つとむ
田所 務

再任

生年月日	1965年10月19日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	6,236株

略歴、当社における地位、担当

- 1989年 4月 当社入社
 - 2010年 4月 航空機内装品カンパニー 役員付部長
 - 2011年 4月 航空機内装品カンパニー 内装品工場 計画部長
 - 2013年 4月 航空機内装品カンパニー 内装品工場長
 - 2013年 6月 執行役員 (航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント 兼 内装品工場長)
 - 2015年 7月 執行役員 (航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント 兼 JAMCO AMERICA, INC. President)
 - 2016年 4月 常務執行役員 (航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント 兼 JAMCO AMERICA, INC. President)
 - 2016年 7月 常務執行役員 (航空機内装品・機器事業本部 業務計画部長)
 - 2016年 9月 常務執行役員 (航空機内装品・機器事業本部 業務計画部長 兼 航空機内装品製造事業部 計画部長)
 - 2017年 4月 常務執行役員 (航空機内装品・機器事業本部 業務計画部長)
 - 2017年12月 常務執行役員 (広報担当 兼 経営企画部長 兼 航空機内装品・機器事業本部 業務計画部長、CRO)
 - 2018年 4月 常務執行役員 (広報担当 兼 経営企画部長、CRO)
 - 2018年 6月 取締役常務執行役員 (広報担当 兼 経営企画部長、CRO)
 - 2020年 4月 取締役専務執行役員 (航空機内装品・機器事業本部長)
- 現在に至る

(重要な兼職の状況)

株式会社新潟ジャムコ取締役

株式会社宮崎ジャムコ取締役

JAMCO AMERICA, INC.取締役

JAMCO SINGAPORE PTE LTD.取締役

JAMCO PHILIPPINES, INC.取締役

取締役候補者とした理由

同氏は、航空機内装品事業における豊富な経験と高度な専門知識と共に経営企画、広報担当、CROとしての実績を有しており、取締役として、重要な業務執行及び経営の意思決定・監督を行ってまいりました。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものです。



候補者
番号

5 後藤 健太郎

再任

生年月日	1962年2月3日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	2,739株

略歴、当社における地位、担当

- 1985年4月 伊藤忠商事株式会社入社
- 2009年4月 同社情報通信・航空電子経営企画部長代行
- 2010年4月 同社航空システム部長
- 2010年6月 当社取締役
- 2013年3月 当社取締役退任
- 2013年4月 当社（出向）人事部長
- 2013年6月 執行役員（人事・労務担当執行役員補佐 兼 人事部長）
- 2013年11月 執行役員（人事・労務担当 兼 人事部長）
- 2015年4月 執行役員（人事総務部長、CCO）
- 2016年3月 伊藤忠商事株式会社退職
- 2016年4月 常務執行役員（人事総務担当 兼 人事総務部長、CCO）
- 2016年6月 取締役常務執行役員（人事総務担当 兼 人事総務部長、CCO）
- 2016年11月 取締役常務執行役員（経営企画、広報・IR担当 兼 経営企画部長、CRO）
- 2017年4月 取締役常務執行役員（広報・IR担当 兼 経営企画部長、CRO）
- 2017年12月 取締役常務執行役員（IR担当、広報・経営企画管掌、CFO）
- 2018年6月 取締役常務執行役員（IR担当、CFO）
現在に至る

取締役候補者とした理由

同氏は、人事総務、経営企画及び経理財務部門での豊富な経験と知識並びにCCO、CRO、CFOとしての実績を有し、取締役として、重要な業務執行及び経営の意思決定・監督を行ってまいりました。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、引き続き取締役として選任をお願いするものです。



候補者
番号

6 かすや としひさ
粕谷 寿久

新任

生年月日

1960年3月1日生

取締役会への出席状況

—

所有する当社株式の数

6,008株

略歴、当社における地位、担当

- 1982年4月 当社入社
- 2010年4月 航空機内装品カンパニー 役員付部長 兼 企画開発室長
- 2012年4月 航空機内装品カンパニー 技術部長
- 2013年4月 航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント
- 2013年6月 執行役員（航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント（技術総括））
- 2014年5月 執行役員（航空機内装品カンパニー・バイス・プレジデント（技術総括））兼 JAMCO SINGAPORE PTE LTD.社長
- 2015年6月 取締役執行役員（全社技術統括 兼 航空機内装品カンパニー プロダクトイノベーション室長）
- 2016年4月 取締役常務執行役員（全社技術統括 兼 航空機内装品カンパニー プロダクトイノベーション室長）
- 2016年6月 取締役常務執行役員（全社技術統括 兼 航空機内装品・機器事業本部 技術本部長 兼 プロダクトイノベーション室長）
- 2017年4月 取締役常務執行役員（航空機内装品・機器事業本部 技術本部長）
- 2018年4月 常務執行役員（航空機内装品・機器事業本部付 兼 プロダクトイノベーション室長）
- 2019年2月 常務執行役員（航空機内装品・機器事業本部付 兼 航空機シート製造事業部長 兼 サプライチェーンマネジメント推進室長）
- 2019年4月 常務執行役員（航空機内装品・機器事業本部副事業本部長 兼 航空機シート製造事業部長 兼 サプライチェーンマネジメント推進室長）
- 2020年1月 常務執行役員（航空機内装品・機器事業本部副事業本部長 兼 航空機内装品・シート製造事業部長）
- 2020年4月 常務執行役員（広報担当 兼 経営企画部長、CRO）
現在に至る

（重要な兼職の状況）

JAMCO AMERICA, INC.取締役

JAMCO SINGAPORE PTE LTD.取締役

取締役候補者とした理由

同氏は、航空機内装品並びに航空機シート関連の技術及び製造部門での豊富な経験と高度な専門知識を有しており、2020年度からは広報、経営企画を担当すると共にCROとしての業務執行を行ってまいりました。当社の経営理念を実現し事業戦略を遂行できるものと判断し、取締役として選任をお願いするものです。

候補者
番号

7 藤川 寛

再任 社外

生年月日	1964年9月28日生
取締役会への出席状況	11/11回 (100%)
所有する当社株式の数	0株

略歴、当社における地位、担当

- 1989年 4月 伊藤忠商事株式会社入社
- 1990年 5月 伊藤忠アビエーション株式会社出向
- 2003年 7月 ITOCHU Aviation,Inc. (米国) ニューヨーク事務所 General Manager
- 2005年 7月 同社ワシントンDC事務所 General Manager
- 2006年 4月 同社Secretary and Vice President
- 2013年 4月 伊藤忠商事株式会社 人事・総務部 採用・人材マネジメント室長
- 2015年 4月 同社機械カンパニー プラント・船舶・航空機部門 航空宇宙部長代行
- 2018年 4月 同社機械カンパニー プラント・船舶・航空機部門 航空宇宙部長
日本エアロスペース株式会社社外取締役
伊藤忠アビエーション株式会社社外取締役
ITOCHU Aviation,Inc. 社外取締役
IC AirLease One Limited取締役
- 2019年 4月 ライラック株式会社取締役
- 2019年 6月 当社取締役
現在に至る

(重要な兼職の状況)

- 伊藤忠商事株式会社 機械カンパニー プラント・船舶・航空機部門 航空宇宙部長
- 日本エアロスペース株式会社 社外取締役
- 伊藤忠アビエーション株式会社 社外取締役
- ITOCHU Aviation,Inc. 社外取締役
- IC AirLease One Limited取締役
- ライラック株式会社取締役

社外取締役候補者とした理由

同氏は、大株主である伊藤忠商事株式会社の機械カンパニー プラント・船舶・航空機部門 航空宇宙部長を務めており、航空業界での豊富な経験を当社の経営に活かしていただきたいため、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものです。



候補者
番号

8 のぐち としひこ
野口 利彦

再任 社外

生年月日	1962年2月3日生
取締役会への出席状況	13/14回 (93%)
所有する当社株式の数	0株

略歴、当社における地位、担当

- 1986年4月 全日本空輸株式会社入社
- 2009年4月 同社整備本部 原動機センター 業務推進室 室長
- 2012年10月 同社整備本部 部品事業室 事業推進部 部長
- 2013年4月 同社整備センター 部品事業室 部品計画部 部長
- 2014年4月 同社整備センター 機体事業室 機体技術部 部長
- 2016年4月 同社整備センター 技術部 部長
- 2016年6月 公益社団法人日本航空技術協会 理事
- 2018年4月 全日本空輸株式会社 整備センター 副センター長
- 2018年6月 当社取締役
現在に至る

(重要な兼職の状況)

- 全日本空輸株式会社 整備センター 副センター長
- 公益社団法人日本航空技術協会 理事

社外取締役候補者とした理由

同氏は、大株主であるANAホールディングス株式会社の子会社、全日本空輸株式会社の整備センター副センター長を務めており、航空輸送業界での豊富な経験を当社の経営に活かしていただきたいため、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものです。

候補者
番号9 すずき しんいち
鈴木 伸一

再任

社外

独立役員

生年月日	1948年11月12日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	0株

略歴、当社における地位、担当

- 1971年 7月 川崎重工業株式会社入社
- 2000年 7月 同社航空宇宙事業本部 営業本部 防衛システム部長
- 2003年 4月 同社理事 航空宇宙カンパニー営業本部 副本部長 兼 防衛航空機部長
- 2005年 4月 同社執行役員 航空宇宙カンパニーバイス・プレジデント 兼 営業本部長
- 2008年 6月 日本飛行機株式会社 代表取締役社長
- 2012年 6月 同社顧問
- 2014年 6月 当社取締役
現在に至る

社外取締役候補者とした理由

同氏は、企業経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、独立取締役の立場から取締役会において積極的な意見具申並びに監督を行ってきたことから、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものです。



候補者
番号

10 わたなべ 渡辺 じゅいち 樹一

再任

社外

独立役員

生年月日	1955年6月7日生
取締役会への出席状況	14/14回 (100%)
所有する当社株式の数	0株

略歴、当社における地位、担当

- 1979年4月 伊藤忠商事株式会社入社
- 1986年12月 同社アルジェリア事務所 エネルギー・化学品担当ディレクター
- 1991年4月 伊藤忠石油開発株式会社 次長
- 1996年12月 ソニー生命保険株式会社入社
- 1998年1月 アイダエンジニアリング株式会社入社 国際事業部 主事
- 1999年3月 同社国際事業推進室 事務局長 兼 営業企画管理部長
- 2003年10月 同社管理本部 管理グループ長
- 2004年11月 同社AIDA S.r.l (イタリア子会社) 欧州事業副社長 兼 CFO 兼 ドイツ子会社取締役
- 2007年1月 同社子会社 監査室長、内部統制監査室長 兼 子会社業務室長
- 2010年4月 帝国インキ製造株式会社入社 海外業務部長
- 2011年4月 ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社入社 経営企画部マネジャー
- 2015年4月 同社CS第2部 シニアマネジャー
一般社団法人GBL研究所 理事
早稲田大学 非常勤講師
- 2016年6月 当社取締役
- 2018年9月 ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社 シニアアドバイザー
現在に至る

(重要な兼職の状況)

- ジャパン・ビジネス・アシュアランス株式会社 シニアアドバイザー
- 一般社団法人GBL研究所 理事
- 早稲田大学 非常勤講師

社外取締役候補者とした理由

同氏は、国際企業活動に関わる豊富な経験並びに米国公認会計士、公認内部監査人及び公認不正検査士としての会計並びに内部統制に関する幅広い見識を有しており、独立取締役の立場から取締役会において積極的な意見具申並びに監督を行ってきたことから、引き続き社外取締役としての選任をお願いするものです。

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 社外取締役候補者に関する事項は、次のとおりであります。
- (1) 藤川寛、野口利彦、鈴木伸一、渡辺樹一の4氏は社外取締役候補者であります。なお、当社は鈴木伸一、渡辺樹一の両氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届け出ております。
 - (2) 藤川寛氏は現在当社の社外取締役であり、その就任期間は第80回定時株主総会終結の時をもって1年間となります。野口利彦氏は現在当社の社外取締役であり、その就任期間は第80回定時株主総会終結の時をもって2年間となります。鈴木伸一氏は現在当社の社外取締役であり、その就任期間は第80回定時株主総会終結の時をもって6年間となります。渡辺樹一氏は現在当社の社外取締役であり、その就任期間は第80回定時株主総会終結の時をもって4年間となります。
 - (3) 取締役藤川寛、野口利彦、鈴木伸一、渡辺樹一の4氏が在任中の2019年8月20日に、当社は国土交通省東京航空局長より業務改善命令を受け、同年11月12日に改善に係る措置報告を提出いたしました。上記4氏は、社内報告を受けるまで本業務改善命令の対象となった事案を認識しておりませんでした。上記4氏は、本件報告を受ける以前より当社取締役会等において、コンプライアンス等の観点に立った提言を行ってまいりました。又、本件事実関係の判明後は、再発防止のための提言、コンプライアンス体制強化の徹底を求める等、その職務を適切に果たしております。
 - (4) 当社は、社外取締役候補者である藤川寛、野口利彦、鈴木伸一、渡辺樹一の4氏の選任が承認された場合、期待された役割を十分に発揮できるよう、当社定款に基づき各氏と責任限定契約を継続する予定であります。ただし、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額です。
3. 各役員の所有する当社の株式数には、ジャムコ役員持株会の持分が含まれております。
4. 渡辺樹一氏は2020年6月19日開催の株式会社ラックの第13回定時株主総会で同社社外取締役に就任予定であります。

第3号議案 補欠監査役1名選任の件

監査役が法令に定める員数を欠くことになる場合に備え、予め補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案における選任の効力は、就任前に限り、監査役会の同意のうえ取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。



ありよし まこと
有吉 眞

社外

生年月日

1956年5月17日生

所有する当社株式の数

0株

略歴、当社における地位

- 1983年4月 弁護士登録（第一東京弁護士会） 栄木忠常法律事務所入所
- 1989年4月 新日本法律事務所（現・ARIYOSHI法律事務所）開設
- 1998年6月 当社非常勤監査役
- 1999年4月 第一東京弁護士会 副会長
- 1999年6月 株式会社ゼンリン 非常勤監査役
- 2001年1月 日本弁護士連合会 事務次長
- 2003年1月 最高裁判所司法研修所 刑事弁護教官
- 2006年6月 株式会社ゼンリンプリントテックス 監査役
- 2006年11月 新司法試験 考査委員
- 2009年1月 株式会社日興商事（現・株式会社NIKKOホールディングス）代表取締役
- 2013年4月 日本大学大学院 法務研究科 専任教授
現在に至る

(重要な兼職の状況)

ARIYOSHI法律事務所 弁護士
株式会社ゼンリンプリンテックス 監査役
株式会社NIKKOホールディングス 代表取締役

補欠監査役候補者とした理由

同氏は、弁護士としての豊富な企業法務の経験を有しております。又、経営に関する幅広い見識を有していることから、社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、補欠監査役として選任をお願いするものです。

- (注) 1. 補欠監査役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 補欠監査役候補者に関する事項は、次のとおりであります。
(1) 有吉眞氏は社外監査役候補者であります。
(2) 当社は、補欠監査役候補者である有吉眞氏が社外監査役に就任した場合、期待された役割を十分に発揮できるよう、当社定款に基づき同氏と責任限定契約を締結する予定であります。ただし、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める最低責任限度額です。

以上

I 企業集団の現況に関する事項

1. 事業の経過及びその成果

当連結会計年度は、米中通商問題や英国のEU離脱をめぐる混乱への懸念などにより、景気の減速感が高まるなか、第4四半期に入り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、世界経済は一段と厳しい状況となりました。このようななかで、ドル円為替相場は対米ドル円レート112円台前半から103円台前半で推移しました。

航空輸送業界では、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響で、各国において渡航禁止令が発出されるなど、それまで堅調であった旅客需要が急激に減少し、経営環境は大きく悪化しました。又、航空機メーカーにおいても、航空需要の急激な落ち込みにより、ボーイング、エアバス共に大幅な減産が計画される状況となりました。

(ご参考) 財務ハイライト

売上高	915億35百万円 前期比 8.9%増 	営業利益	18億7百万円 前期比 58.2%減 
経常利益	11億78百万円 前期比 64.2%減 	親会社株主に 帰属する 当期純利益	6億5百万円 前期比 68.3%減 

こうしたなか当社グループでは、航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連においては、2019年3月26日に公表しました不適切な品質事案に対して、原因究明・安全性の検証を行うと共に是正・再発防止に取り組み、より高いコンプライアンス・品質意識への変革を進めました。

航空機器等製造関連においては、生産性改善に取り組むと共に、これまで培った金属加工技術を生かし、内装品やシート部品の内製化を進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、エアライン向け機体整備の拡大に努めました。

この結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高 91,535百万円（前期比 7,467百万円増）、営業利益 1,807百万円（前期比 2,513百万円減）、経常利益 1,178百万円（前期比 2,112百万円減）、親会社株主に帰属する当期純利益 605百万円（前期比 1,304百万円減）となりました。

なお、当連結会計年度末に次期以降の完成工事に対する工事損失引当金を 3,607百万円計上しています。この工事損失引当金による期間損益への影響は、当第4四半期連結会計期間において売上原価 460百万円の減少（第3四半期連結累計期間末の工事損失引当金は 4,068百万円）、又、当連結会計年度においては売上原価 173百万円の減少（前連結会計年度末の工事損失引当金は 3,781百万円）となりました。

グループ全体の販売費及び一般管理費、営業外損益、特別損益の状況は次のとおりです。

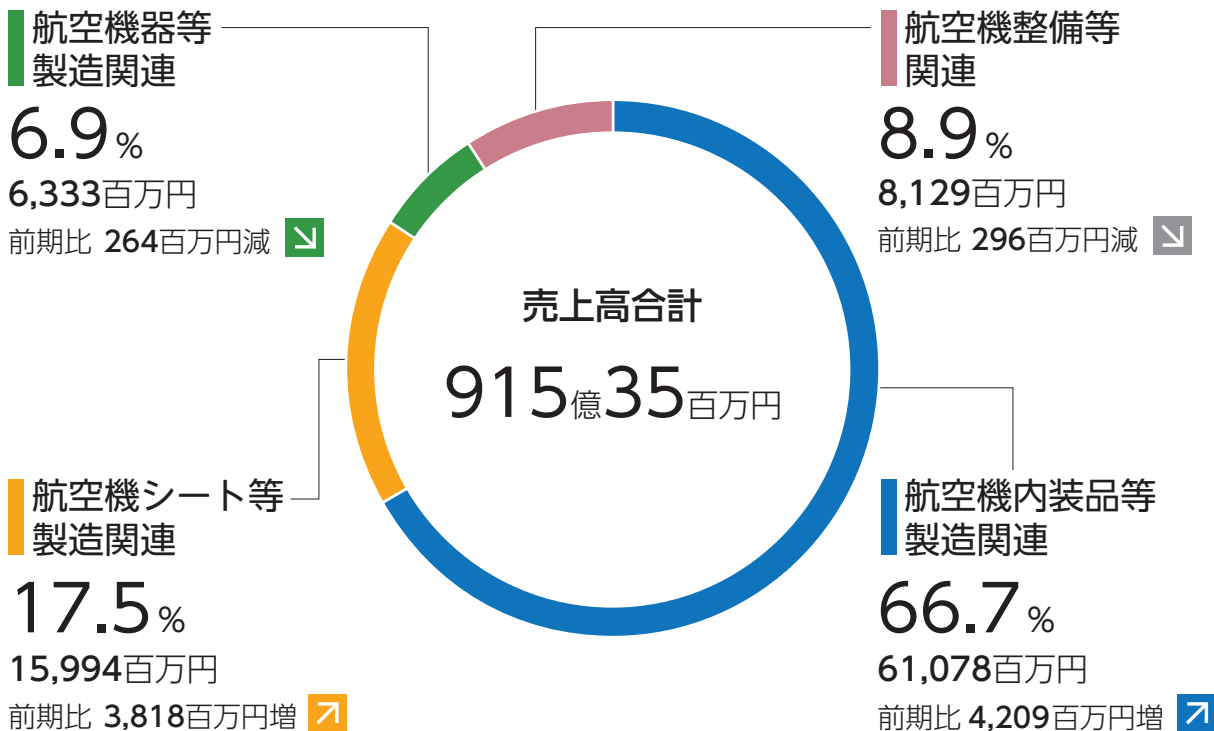
販売費及び一般管理費は、保証工事費、販売手数料の減少などにより 8,636百万円（前期比 684百万円減）となりました。

営業外損益は、支払補償費の減少はありましたが、前連結会計年度末よりも為替相場が円高で推移して為替差損益が悪化するなどにより 629百万円の損（前期は、1,030百万円の損）となりました。

特別損益は、賠償保険により品質事案に係る受取保険金 60百万円を計上しましたが、品質関連損失などにより、279百万円の損（前期は、263百万円の損）となりました。

セグメント別業績

ご参考 事業区分別売上高構成比



(単位: 百万円)

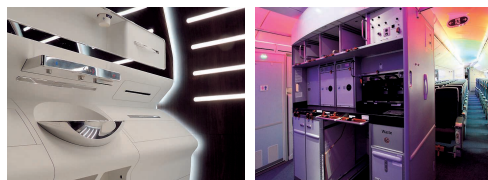
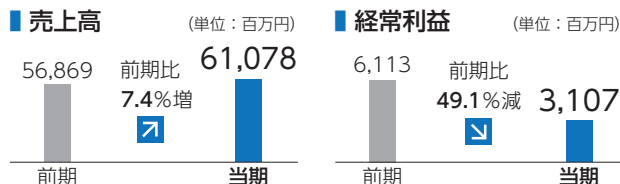
事業区分	前 期	当 期	前期比
航空機内装品等製造関連	56,869	61,078	4,209百万円増
航空機シート等製造関連	12,175	15,994	3,818百万円増
航空機器等製造関連	6,597	6,333	264百万円減
航空機整備等関連	8,426	8,129	296百万円減

セグメント別の業績は次のとおりです。

航空機内装品等製造関連

主要な 事業内容

主力製品のギャレー、ラバトリーは、長年にわたる製造・販売実績と共に世界的シェアを誇っております。又、機内改修などのアフター・マーケット・ビジネスにも注力しております。



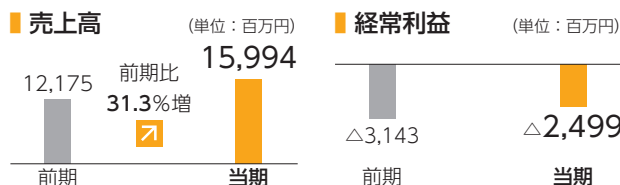
当事業では、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大するまでは堅調であった航空需要を背景に製品の出荷が進み、前期に比べ売上高は増加しました。一方、経常利益については、売上高増加の影響があったものの、不適切な品質事案への対応により一時的に発生した出荷遅延の改善に伴う人件費及び輸送費用などの増加に加え、前期における採算性の良いプログラムの出荷による反動や、為替差損の発生などにより前期に比べ減少しました。

この結果、航空機内装品等製造関連は、売上高61,078百万円（前期比 4,209百万円増）、経常利益 3,107百万円（前期比 3,005百万円減）となりました。

航空機シート等製造関連

主要な 事業内容

新規に参入をした航空機シート分野においては、航空機内装品で培った技術力を遺憾なく発揮し、高品質なプレミアム・シートを供給しております。



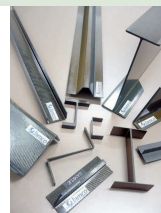
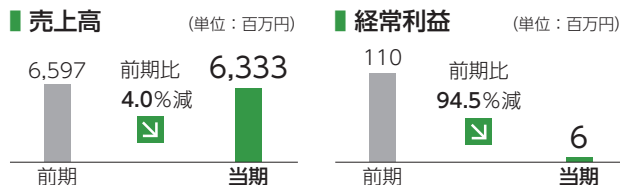
当事業では、当連結会計年度より出荷を開始したビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進み、前期に比べ売上高は増加しました。一方、経常損益については、売上高増加の影響があったものの、不適切な品質事案の対応として一時的に株式会社宮崎ジャムコにおける生産を停止し、生産拠点の振替を行ったことに伴う追加費用に加え、一部プログラムの生産性改善の遅れによるコスト増加などにより経常損失となりました。

この結果、航空機シート等製造関連は、売上高15,994百万円（前期比3,818百万円増）、経常損失2,499百万円（前期は、経常損失 3,143百万円）となりました。

航空機器等製造関連

主要な 事業内容

特殊工程技術を駆使して、ジェットエンジン部品、炭素繊維構造部材、熱交換器等の製造・販売をしております。



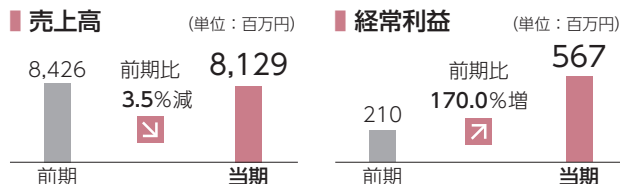
当事業では、熱交換器等装備品や炭素繊維構造部材の出荷は堅調であったものの、航空機エンジン部品の一部出荷が次期以降に繰り延べられたことなどにより前期に比べ売上高は減少しました。又、経常利益については、売上高減少などにより前期に比べ減少しました。

この結果、航空機器等製造関連は、売上高 6,333百万円（前期比 264百万円減）、経常利益 6百万円（前期比 104百万円減）となりました。

航空機整備等関連

主要な 事業内容

当社創業以来、60余年にわたる実績を誇っており、国内最大の独立系整備専門会社として、官公庁機からエアライン機に至るまで、幅広く事業を展開しております。



当事業では、機体整備及び装備品整備において一部出荷が次期以降に繰り延べられたことなどにより前期に比べ売上高は減少しました。一方、経常利益については、エアライン向け機体整備が堅調に増加したことにより採算性が向上し、前期に比べ増加しました。

この結果、航空機整備等関連は、売上高8,129百万円（前期比 296百万円減）、経常利益 567百万円（前期比 357百万円増）となりました。

2. 設備投資の状況

設備投資については、航空機内装品及び航空機シート関連の主力製品であるギャレー、ラバトリー、シート製造に係る金型、各事業の生産工場の改修及び施設設備の更新、業務効率向上のためのIT関連のシステムの導入等を進めました。その結果、当期の設備投資額は2,387百万円となりました。

3. 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

4. 対処すべき課題

当社は、2019年3月26日付の「不適切な検査業務および第三者による特別調査委員会設置について」にて公表した不適切な事案に関して、同年8月20日付で国土交通省東京航空局長殿より、航空機内装品・機器事業本部に係る認定事業場（認定番号第094号）に対する業務改善命令を受領いたしました。

当社は、業務改善命令を厳粛に受けとめると共に、不適切な品質事案に関して調査を委託した第三者による特別調査委員会からの提言を踏まえて策定した再発防止に係る諸施策について、当社グループ一丸となって鋭意取り組んでまいります。又、このような事態を再び繰り返すことがないように、品質第一、コンプライアンス遵守の企業文化を再構築し、信頼回復に努めてまいります。

又、新型コロナウイルス感染症拡大は航空機による移動制限をもたらし、世界中のエアライン及び機体メーカーは減便・減産を余儀なくされています。航空業界に事業の軸足を置く当社グループにとっても、非常に厳しい経営環境に直面しており、今後の市場動向を的確に捉えつつ、あらゆる経営課題に慎重かつスピード感をもって取り組んでまいり所存です。

当社グループでは、これらの課題を踏まえて、次のような取組みを推進してまいります。

[航空機内装品等製造関連]

- (1) 措置報告書の是正策を確実に実行すると共に、品質システムの改革に取り組む。
- (2) 生産プロセスの改革を行い、生産管理基幹システム更新、資材管理プロセスと技術開発プロセスの改善を進め、安定した生産体制の構築に努める。
- (3) 部品内製化、スペア部品供給体制の充実と委託先管理の強化、海外委託先開拓などの施策を推進し、サプライチェーンマネジメントの強化に努める。
- (4) 開発コストとリードタイムの削減、グループ会社を含めた技術リソースの有効活用と作業量の平準化を実現し、技術競争力の向上を図る。

[航空機シート等製造関連]

- (1) Venture Seatの受注拡大に向けて販売を強化すると共に、安定的な生産による量産化を進め、安定収益化を図る。
- (2) 標準型プラットフォームを活用した次期プレミアム・シートへの投資と魅力的な製品開発を進め、継続的な成長戦略を策定して事業を推進する。
- (3) グループサプライチェーンの連携強化を図り、生産効率を向上する。

[航空機器等製造関連]

- (1) 技術的付加価値の高い製品の受注拡大を図り、競争力を強化する。
- (2) 設計製造能力の向上を図り、提案型の新たな製品開発により事業領域拡大を推進する。
- (3) 機器製造の技術力を内装品事業・シート事業へ応用し、内製化製品の生産数増大を図り、新たな内製化製品の検討を進める。

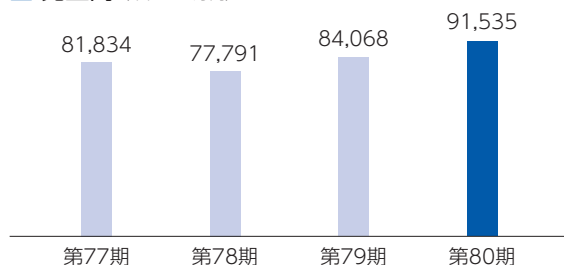
[航空機整備等関連]

- (1) 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化を図る。
- (2) 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化する。
- (3) 安定した収益を上げることのできる事業基盤を構築する。

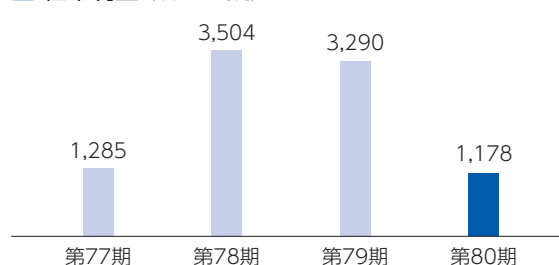
5. 財産及び損益の状況

区 分	第77期 (2017年3月期)	第78期 (2018年3月期)	第79期 (2019年3月期)	第80期 (当連結会計年度 (2020年3月期))
売上高	81,834百万円	77,791百万円	84,068百万円	91,535百万円
経常利益	1,285百万円	3,504百万円	3,290百万円	1,178百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,014百万円	1,681百万円	1,910百万円	605百万円
1株当たり当期純利益	37.82円	62.69円	71.23円	22.58円
総資産	92,559百万円	94,456百万円	102,980百万円	120,184百万円
純資産	28,003百万円	29,553百万円	30,715百万円	30,373百万円

■ 売上高 (単位：百万円)

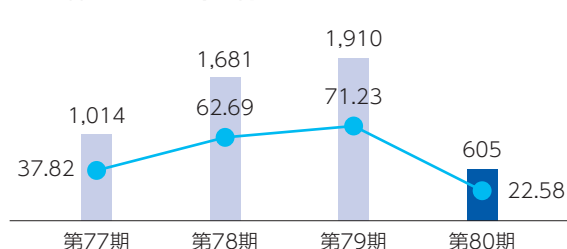


■ 経常利益 (単位：百万円)

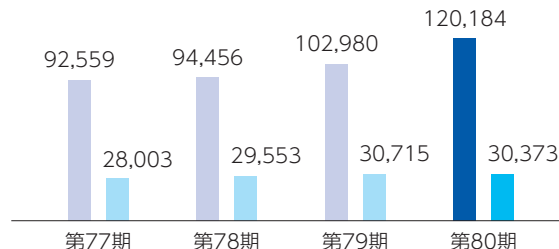


■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)

● 1株当たり当期純利益 (単位：円)



■ 総資産 / ■ 純資産 (単位：百万円)



6. 主要な事業内容

事業部門	主要な事業内容
航空機内装品等製造関連事業	ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造
航空機シート等製造関連事業	シート、シートコンソール等の製造
航空機器等製造関連事業	熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造
航空機整備等関連事業	航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造

7. 主要な営業所及び工場

(1) 当社

本社	東京都立川市
内装品工場	東京都立川市
機器製造工場	東京都調布市
部品整備工場	東京都調布市・千葉県成田市・東京都大田区
機体整備工場	宮城県岩沼市・大阪府豊中市

(2) 子会社

株式会社	新潟ジャムコ	新潟県村上市
株式会社	宮崎ジャムコ	宮崎県宮崎市
株式会社	徳島ジャムコ	本社：東京都世田谷区 事業所：徳島県板野郡
株式会社	ジャムコ エアロテック	本社：東京都三鷹市 事務所：千葉県成田市
株式会社	オレンジ ジャムコ	東京都立川市
株式会社	ジャムコ エアロマニューファクチャリング	宮城県名取市
株式会社	中条ジャムコ	新潟県胎内市
JAMCO AMERICA, INC.		アメリカ合衆国
JAMCO SINGAPORE PTE LTD.		シンガポール
JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.		シンガポール
JAMCO PHILIPPINES, INC.		フィリピン

8. 従業員の状況

(1) 企業集団の状況

従業員数	前連結会計年度末比増減
3,465名	288名増

- (注) 1. 上記従業員数には、臨時従業員（パートタイマー）249名は除いてあります。
 2. 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。

(2) 当社の状況

従業員数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
1,194名	20名減	43歳	17年

- (注) 1. 上記従業員数には、臨時従業員（パートタイマー）114名は除いてあります。
 2. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

9. 重要な親会社及び子会社の状況

(1) 重要な親会社の状況

特記すべき事項はありません。

(2) 重要な子会社の状況

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
株式会社 新潟ジャムコ	300百万円	100%	航空機内装品製造
株式会社 宮崎ジャムコ	100百万円	100%	航空機内装品、航空機シート製造
株式会社 徳島ジャムコ	30百万円	100%	航空機、航空機装備品整備改造
株式会社 ジャムコ エアロテック	30百万円	100%	航空機、航空機装備品整備改造
株式会社 オレンジ ジャムコ	10百万円	100%	航空機部品の組立補助作業等（障がい者特例子会社）
株式会社 ジャムコ エアロマニュファクチャリング	100百万円	100%	航空機器製造
株式会社 中条ジャムコ	100百万円	0% (注1)	航空機内装品製造
JAMCO AMERICA, INC.	16,538千USD	91.87%	航空機内装品、航空機シートに関する業務、部品調達業務等
JAMCO SINGAPORE PTE LTD.	4,400千SGD	95%	航空機内装品、航空機シート製造
JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.	1,000千USD	50% (注2)	航空機内装に関する技術業務
JAMCO PHILIPPINES, INC.	86,000千PHP	70% (注1)	航空機内装品製造

(注) 1. 子会社の所有割合と当社の所有割合を合計した所有割合は100%であります。

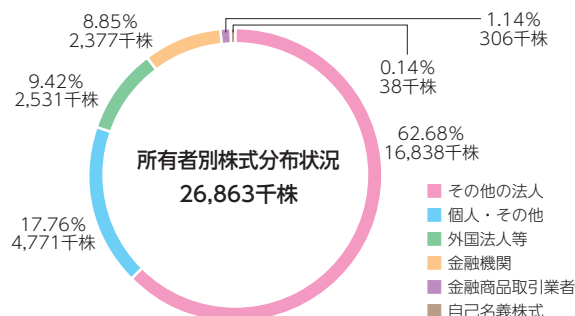
2. 子会社の所有割合と当社の所有割合を合計した所有割合は55%であります。

10. 主要な借入先

借入先	借入金残高
株式会社みずほ銀行	15,245 百万円
株式会社三菱UFJ銀行	12,210
株式会社三井住友銀行	5,031

Ⅱ 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 80,000,000株
2. 発行済株式総数 26,863,974株
3. 株主数 5,541名
(うち単元株主数 5,383名)
4. 大株主(上位10名)



株主名	持株数 千株	持株比率 %
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	658	2.45
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	456	1.70
ジャムコ従業員持株会	396	1.47
BNYMSANV RE BNYMIL RE LF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
JP MORGAN CHASE BANK 385166	268	1.00
三菱商事株式会社	221	0.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	203	0.75

(注) 持株比率は、自己株式 (38,932株) を控除して計算しております。

Ⅲ 会社の新株予約権等に関する事項

特記すべき事項はありません。

IV 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の状況

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
代表取締役社長	大喜多 治 年	CEO	
代表取締役 副社長執行役員	大 上 克 裕	社長補佐、情報システム 担当、品質保証・航空機 整備事業管掌、CIO	MRO Japan株式会社取締役
取締役 専務執行役員	木 村 敏 和	人事総務担当、CCO	
取締役 専務執行役員	加 藤 正 道	航空機内装品・機器事業 本部長	株式会社新潟ジャムコ取締役 株式会社宮崎ジャムコ取締役 JAMCO AMERICA,INC.取締役 JAMCO SINGAPORE PTE LTD.取締役 JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.取締役（代替）
取締役 常務執行役員	後 藤 健太郎	IR担当、CFO	
取締役 常務執行役員	田 所 務	広報担当兼経営企画部 長、CRO	JAMCO AMERICA,INC.取締役 JAMCO SINGAPORE PTE LTD.取締役
取締役	藤 川 寛		伊藤忠商事株式会社 機械カンパニー プラ ント・船舶・航空機部門 航空宇宙部長 日本エアロスペース株式会社 社外取締役 伊藤忠アビエーション株式会社 社外取締役 ITOCHU Aviation,Inc. 社外取締役 IC AirLease One Limited取締役 ライラック株式会社取締役
取締役	野 口 利 彦		全日本空輸株式会社整備センター副センター 長 公益社団法人日本航空技術協会理事
取締役	鈴 木 伸 一		五交商事株式会社 社外監査役
取締役	渡 辺 樹 一		ジャパン・ビジネス・アシユアランス株式会 社シニアアドバイザー 一般社団法人GBL研究所 理事 早稲田大学非常勤講師

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
常勤監査役	磯上 範好		
常勤監査役	蕪木 昇		
監査役	高橋 均		獨協大学 法学部 教授 曙ブレーキ工業株式会社 社外監査役
監査役	渡邊 浩一郎		渡邊浩一郎公認会計士事務所 所長 株式会社タカラトミー社外監査役 UiPath株式会社 社外監査役

- (注) 1. 藤川寛、野口利彦、鈴木伸一、渡辺樹一の4氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 社外取締役藤川寛氏は、大株主である伊藤忠商事株式会社の航空宇宙部長であります。又、日本エアロスペース株式会社、伊藤忠アビエーション株式会社の社外取締役であり、2社は当社と営業上の取引関係があります。
3. 社外取締役野口利彦氏は、大株主であるANAホールディングス株式会社の子会社、全日本空輸株式会社の整備センター副センター長であり、同社は当社と営業上の取引関係があります。
4. 高橋均、渡邊浩一郎の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
5. 鈴木伸一、渡辺樹一、高橋均、渡邊浩一郎の4氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届け出ております。
6. 監査役渡邊浩一郎氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
7. 監査役渡邊浩一郎氏は、UiPath株式会社 社外監査役でありましたが、2020年3月31日をもって退任いたしました。
8. 2020年1月1日付で取締役の担当を以下のとおり変更しております。

氏名	新	旧
加藤 正道	取締役 専務執行役員 航空機内装品・機器事業本部長	取締役 専務執行役員 航空機内装品・機器事業本部長 兼 航空機内装品製造事業部長

2. 事業年度中に辞任により退任した取締役

退任時の会社における地位	氏名	退任時の担当及び重要な兼職の状況	退任日
取締役 専務執行役員	加藤正道	航空機内装品・機器事業本部長 兼 株式会社新潟ジャムコ取締役 株式会社宮崎ジャムコ取締役 JAMCO AMERICA, INC.取締役 JAMCO SINGAPORE PTE LTD.取締役 JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.取締役 (代替)	2020年3月31日

3. 事業年度中に辞任により退任した監査役

退任時の会社における地位	氏名	退任時の担当及び重要な兼職の状況	退任日
監査役	大倉敏治		2019年6月26日

4. 取締役及び監査役の報酬等の総額

区分	支給人員	支給額
取締役	10名	203百万円
(うち社外取締役)	(4名)	(14百万円)
監査役	7名	57百万円
(うち社外監査役)	(4名)	(13百万円)
合計	17名	260百万円

(注) 上記の支給人員には、2019年6月26日開催の第79回定時株主総会の終結の時をもって退任した監査役3名を含んでおります。

5. 社外役員に関する事項

(1) 重要な兼職先と当社との関係

重要な兼職先との関係につきましては、1.の注記に記載のとおりであります。その他の兼職先との間には重要な取引関係等はありません。

(2) 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	出席状況及び発言状況
取締役	藤川 寛	2019年6月26日開催の定時株主総会にて取締役に就任し、就任以降開催の取締役会11回全てに出席し、総合商社の航空宇宙部門において培ってきた経験から、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
取締役	野口 利彦	当事業年度開催の取締役会14回中13回に出席し、航空輸送業界において培ってきた経験から、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
取締役	鈴木 伸一	当事業年度開催の取締役会14回全てに出席し、企業経営及び航空宇宙業界において培ってきた経験から、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
取締役	渡辺 樹一	当事業年度開催の取締役会14回全てに出席し、国際企業活動に関わる見識並びに米国公認会計士、公認内部監査人及び公認不正検査士としての専門的見地から、議案審議等に必要な発言を適宜行っております。
監査役	高橋 均	2019年6月26日開催の定時株主総会にて監査役に就任し、就任後開催の監査役会10回中9回に出席し、又、取締役会11回中10回に出席し、監査結果についての意見交換及び監査に関する重要事項の協議等を行っております。又、主に大学教授としての法務に関する専門的見地からの発言を行っております。
監査役	渡邊 浩一郎	2019年6月26日開催の定時株主総会にて監査役に就任し、就任後開催の監査役会10回中9回に出席し、又、取締役会11回中10回に出席し、監査結果についての意見交換及び監査に関する重要事項の協議等を行っております。又、公認会計士としての豊富な監査経験及び、その専門的見地の発言を行っております。

(3) 社外役員の意見により変更された事業の方針又はその他の事項
該当する事項はありません。

(4) 当社の不正な業務執行に関する対応の概要

取締役藤川寛、野口利彦、鈴木伸一及び渡辺樹一並びに監査役高橋均及び渡邊浩一郎の各氏が在任中の8月20日に、当社は国土交通省東京航空局長より業務改善命令を受け、11月12日に改善に係る措置報告を提出いたしました。上記6氏は、社内報告を受けるまで本業務改善命令の対象となった事案を認識しておりませんでした。

上記6氏は、本件報告を受ける以前より当社取締役会等において、コンプライアンス等の観点に立った提言を行っておりました。又、本件事実関係の判明後は、再発防止のための提言、コンプライアンス体制強化の徹底を求める等、その職務を適切に果たしております。

(5) 主要取引先等特定関係事業者との関係
該当する事項はありません。

(6) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外役員は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当社と社外役員は、会社法第423条第1項の責任につき、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額をもって、損害賠償責任の限度としております。

V 会計監査人に関する事項

1. 会計監査人の名称

太陽有限責任監査法人

2. 報酬等の額

- (1) 当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額

50百万円

- (2) 当社及び当社の子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

50百万円

- (注) 1. 当社と会計監査人との監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区分できないため、上記の金額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

3. 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法・公認会計士法等の法令に違反又は抵触した場合及び公序良俗に反する行為があったと判断した場合に検討・審議いたします。なお、当社都合の他、会計監査人の継続監査年数等も勘案いたします。

4. 現に受けている業務停止処分に係る事項

該当する事項はありません。

5. 過去2年間に受けた業務停止処分に係る事項

該当する事項はありません。

6. 責任限定契約の内容の概要

当社定款において、会計監査人は会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項に規定する会計監査人の損害賠償責任を限定する契約を締結できる旨を定めておりますが、現時点では会計監査人との間で責任限定契約を締結しておりません。

7. 子会社の監査の状況

当社の重要な子会社のうち、JAMCO AMERICA, INC.、JAMCO SINGAPORE PTE LTD.、JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.、JAMCO PHILIPPINES, INC. は、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。

Ⅵ 株式会社の業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項

(業務の適正を確保するための体制の整備)

当社の業務の適正を確保するための体制の整備については、次のとおりであります。

なお、以下における当社グループとは、当社及び当社の子会社から成る企業集団のことを指します。

1. 取締役・使用人の職務の執行が効率的に行われ、且つ法令及び定款に適合することを確保するための体制の整備

- (1) 内部統制全体を統括する組織として、「C R (Compliance Risk)会議」(議長：代表取締役社長)を設置し、内部統制に関する基本方針を策定する。又、取締役又は執行役員の中からチーフ・コンプライアンス・オフィサー (以下C C Oという。)を指名し、当社グループのコンプライアンスの取組みを横断的に統括・管理・監督する。
- (2) C C Oは、コンプライアンス活動の概要について定期的に取締役会に報告する。
- (3) コンプライアンス体制に係わる規程を整備し、取締役及び使用人は、法令・定款及び当社の「経営理念」等を遵守し行動する。
- (4) 「コンプライアンス規範」及び「コンプライアンス規程」のもと、研修体制を構築し、当社グループの取締役及び使用人に対し教育を行い、法令・定款の遵守を徹底する。
- (5) 本社部門、航空機内装品・機器事業本部及び航空機整備事業部に、取締役会において任命された業務執行者を配置し、迅速な業務執行を行わせると共に業務執行者は明確な執行責任のもと、担当部署の業務を執行する。
- (6) 当社グループの使用人等が、法令・定款等に違反する行為を発見した場合の通報体制としての内部通報制度を構築する。

2. 情報の管理及び文書の保存・管理体制の整備

- (1) 情報システム及び情報セキュリティに関する統括責任者としてチーフ・インフォメーション・オフィサー (以下C I Oという。)を取締役又は執行役員の中から指名する。

- (2) C I Oは、情報システム及び情報セキュリティ活動において当社グループの情報システム及び情報セキュリティを統括し、概要について定期的に取り締役に報告する。
- (3) 「情報管理規程」及び「文書管理規程」のもと、情報及び文書（関連資料を含む。）を適切に管理し、保存・管理（廃棄を含む。）を徹底する。
- (4) 取締役の職務の執行に係わる文書その他の情報については、「文書管理規程」に盛り込み適切な管理を行うと共に、取締役及び監査役がその文書や情報を常時閲覧できるようにする。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制の整備

- (1) リスクに関する統括責任者としてチーフ・リスクマネジメント・オフィサー（以下C R Oという。）を取締役又は執行役員の中から指名する。
- (2) C R Oは、「リスクマネジメント規程」のもと、当社グループのリスク管理の体制を統括する。
- (3) C R Oは、当社グループのリスク管理の体制整備の進捗状況をレビューし、リスク管理に関する事項を定期的に取り締役に報告する。又、「リスクマネジメント規程」で対策が必要と規定される主要リスクについては、「C R 会議」で十分に協議し、予測リスクを最小限に抑える対策を講じる。
- (4) 内部監査部門として代表取締役社長に直属する監査部は、定期的にはリスク状況を内部監査する。
- (5) 内部監査により法令違反その他の事由に基づき著しい損失の危険のある業務執行行為が発見された場合の通報体制として、発見された危険の内容及びそれがもたらす損失の程度等について、直ちに「C R 会議」及び担当部署に通報させる。

4. 財務報告の適正性を確保するための体制の整備

- (1) 財務報告の適正化に関する統括責任者としてチーフ・ファイナンシャル・オフィサー（以下C F Oという。）を取締役又は執行役員の中から指名する。
- (2) C F Oは、財務報告適正化委員会活動に関する事項を定期的に取り締役に報告する。

- (3) CFOは、「財務報告に係わる内部統制規程」及び「財務報告に係わる内部統制規則」のもと、財務報告の信頼性を確保する内部統制の整備を行う。
- (4) 内部監査部門として代表取締役社長に直属する監査部は、内部統制の評価及び内部監査を実施し、監査結果を代表取締役社長に報告し、CFOに写しを提出する。
- (5) CFOは、内部監査により内部統制上の不備等が発見された場合は、主担当部に対し速やかな改善を求める。
- (6) 内部統制上の不備等が改善された後、会計監査人による内部統制監査を受ける。
- (7) 代表取締役社長は、「内部統制報告書」を作成し、取締役会において決議する。

5. 当社グループの業務の適正を確保する体制の整備

- (1) 当社グループの企業行動指針として「経営理念」、「コンプライアンス規範」等を定め、「CR会議」の下部機関である各種委員会等を通じ、統一した制度の構築・維持に努める。
- (2) 子会社ごとに当社の取締役又は執行役員から責任者を決め、事業の総括的な管理をし、子会社の取締役及び使用人に適正且つ効率的な業務執行を行わせる。
- (3) 子会社の経営を管理する基準を設け、経営上の重要な案件については、子会社の性質及び事案の内容に応じて、当社へ報告させるか、又は当社が事前に承認する。
- (4) 主要な子会社に対しては、当社経理財務部から取締役又は監査役を選任し、会計の状況を定期的に監督する。

6. 監査役の職務を補助すべき使用人、監査役への報告その他監査役の監査が実効的に行われるための体制の整備

- (1) 監査役は、取締役会のほか、役員会やその他重要な会議に出席し、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、関係資料を閲覧することができる。
- (2) 監査役は、監査業務の補助を行うための補助者を要請できる。
- (3) 前項で補助者となった使用人の取締役からの独立性を担保するため、その職務の遂行は監査役の指示命令に従い、取締役から独立して行うものとし、又、人事異動、人事評価、

懲戒処分には、監査役会の同意を得たうえで実施する。

- (4) 取締役及び使用人は、各監査役の要請に応じて必要な報告をする。
- (5) 法令の違反行為等、当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した当社グループの取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、その事実を直ちに監査役に報告する。
当社は、監査役への報告を行った当社グループの取締役、監査役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者に対し、当該報告をしたことを理由として不利益な取り扱いをしない。
- (6) 監査役会は、代表取締役、会計監査人、内部監査部門及び子会社監査役との関係を緊密に保ち、定期会合、意見交換を行うことができる。
- (7) 監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払又は償還を請求したときは、当社は、当社諸規程の定めに基づき速やかに当該費用を支払う。なお、監査役は、費用の支出に当たっては、その効率性や適正性に十分留意するものとする。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要)

当事業年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要については、次のとおりであります。

1. 内部統制全体について

代表取締役社長を議長とするC R会議を適宜開催し、当社グループの内部統制全体を統括しました。

2. コンプライアンス体制について

- (1) C C Oを委員長とするコンプライアンス委員会を適宜開催しました。同委員会主管のもと、各種コンプライアンス研修を実施しました。
- (2) 社内及び社外に設置している内部通報窓口を、当事業年度を通じて継続的に運用することにより、コンプライアンス違反の未然防止に努めました。

3. 情報管理体制について

- (1) C I Oを委員長とする情報セキュリティ委員会を適宜開催しました。同委員会主管のもと、当社及び子会社に対する情報セキュリティに関する監査及び研修を実施しました。
- (2) 情報セキュリティ委員会にオブザーバーとして主要国内子会社を加え、当社グループの情報セキュリティ強化に関わる取組みを実施しました。

4. リスク管理体制について

- (1) C R Oを委員長とするリスクマネジメント委員会を適宜開催しました。同委員会主管のもと、リスクマネジメント研修、当社の全部門によるリスク状況の自己点検、リスクの洗い出し及び前事業年度に抽出された主要リスクへの対応状況の確認を実施しました。

- (2) 事業継続計画（BCP）について、地震災害を中心とした現行の被害想定を見直し、豪雨、水害、津波などの風水害の被害も含めた内容にアップグレードするとともに、対象範囲を主要国内子会社まで拡張する方向で改訂作業を進めました。
- (3) 2020年1月1日の組織改編に合わせてリスクマネジメント責任者、委員及び推進者を再編成して運営組織の強化を図りました。

5. 財務報告の適正性を確保するための体制について

ＣＦＯを委員長とする財務報告適正化委員会を適宜開催し、財務報告統制に関わる全社的取組みを主導しました。

6. 当社グループの業務の適正を確保するための体制について

- (1) 子会社に対して、当社の取締役、執行役員又は従業員を、社長その他の経営幹部として派遣することで、子会社の経営の意思決定及び業務執行を監督しました。
- (2) 子会社の管理に関する社内規程に従い、子会社における業務執行については、事案に応じて事前に当社が決裁を行いました。
- (3) 国内子会社のコンプライアンス委員会の運営を継続的に支援し、当社グループにおけるコンプライアンス体制の強化を図りました。

7. 監査役の監査が実効的に行われるための体制について

- (1) 監査役は、取締役会のほか、役員会やその他の重要な会議に出席しました。又、適宜、取締役及び使用人からその職務の執行状況を聴取し、業務執行に関係する資料を閲覧しました。
- (2) 監査役会は、代表取締役ほかＣＲ会議メンバーと会合をもち、又、会計監査人、内部監査部門及び子会社監査役と定期的に意見交換を行うことにより、監査の実効性の確保に努めました。
- (3) 監査役会は、社外取締役と定期的に会合を開催しました。
- (4) 社外監査役は、社外取締役と定期的に会合を開催しました。

連結計算書類

連結貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	8,690,990
受取手形及び売掛金	31,898,770
商品及び製品	1,422,398
仕掛品	30,328,978
原材料及び貯蔵品	20,500,595
未収消費税等	520,946
その他	4,378,388
貸倒引当金	△ 8,504
流動資産合計	97,732,564
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	6,763,105
機械装置及び運搬具	1,991,164
土地	3,440,275
リース資産	606,013
建設仮勘定	130,138
その他	835,343
有形固定資産合計	13,766,040
無形固定資産	
ソフトウェア	1,245,678
ソフトウェア仮勘定	130,939
リース資産	605,706
その他	16,796
無形固定資産合計	1,999,120
投資その他の資産	
投資有価証券	453,439
長期前払費用	45,798
差入保証金	85,597
繰延税金資産	6,063,002
その他	38,982
投資その他の資産合計	6,686,819
固定資産合計	22,451,980
資産合計	120,184,545

科目	金額
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	11,394,529
電子記録債務	9,551,128
短期借入金	36,386,966
1年内返済予定の長期借入金	1,200,000
リース債務	380,126
未払費用	1,306,804
未払法人税等	302,208
未払消費税等	155,762
前受金	8,644,784
賞与引当金	1,642,946
工事損失引当金	3,607,749
その他	2,376,776
流動負債合計	76,949,782
固定負債	
長期借入金	3,500,000
リース債務	794,172
退職給付に係る負債	7,282,672
損害補償損失引当金	987,196
長期未払金	253,902
繰延税金負債	43,320
固定負債合計	12,861,263
負債合計	89,811,045
純資産の部	
株主資本	
資本金	5,359,893
資本剰余金	4,309,484
利益剰余金	20,483,085
自己株式	△ 31,175
株主資本合計	30,121,288
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	104,663
為替換算調整勘定	△ 41,674
退職給付に係る調整累計額	△ 339,306
その他の包括利益累計額合計	△ 276,318
非支配株主持分	528,529
純資産合計	30,373,500
負債及び純資産合計	120,184,545

連結損益計算書 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		91,535,360
売上原価		81,090,903
売上総利益		10,444,456
販売費及び一般管理費		8,636,882
営業利益		1,807,573
営業外収益		
受取利息	47,071	
受取配当金	5,300	
受取保険金	52,110	
助成金収入	195,413	
その他	84,886	384,782
営業外費用		
支払利息	421,684	
持分法による投資損失	11,396	
為替差損	111,896	
売却債権譲渡損	126,958	
支払補償費	266,108	
その他	76,242	1,014,287
経常利益		1,178,069
特別利益		
受取保険金	60,000	60,000
特別損失		
固定資産処分損	67,165	
減損損失	15,125	
災害損失	13,306	
品質関連損失	244,243	339,841
税金等調整前当期純利益		898,227
法人税、住民税及び事業税	360,986	
法人税等調整額	△95,911	265,075
当期純利益		633,152
非支配株主に帰属する当期純利益		27,319
親会社株主に帰属する当期純利益		605,832

連結株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,359,893	4,309,484	20,413,755	△ 30,968	30,052,165
当期変動額					
剰余金の配当			△ 536,502		△ 536,502
親会社株主に帰属する当期純利益			605,832		605,832
自己株式の取得				△ 207	△ 207
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	69,329	△ 207	69,122
当期末残高	5,359,893	4,309,484	20,483,085	△ 31,175	30,121,288

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	166,007	50,597	121,844	△ 217,091	121,358	541,951	30,715,475
当期変動額							
剰余金の配当							△ 536,502
親会社株主に帰属する当期純利益							605,832
自己株式の取得							△ 207
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 61,344	△ 50,597	△ 163,519	△ 122,215	△ 397,676	△ 13,422	△ 411,098
当期変動額合計	△ 61,344	△ 50,597	△ 163,519	△ 122,215	△ 397,676	△ 13,422	△ 341,975
当期末残高	104,663	—	△ 41,674	△ 339,306	△ 276,318	528,529	30,373,500

計算書類

貸借対照表 (2020年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	3,980,142	支払手形	193,693
受取手形	93,807	買掛金	11,756,600
売掛金	30,214,454	電子記録債務	9,551,128
商品及び製品	1,393,904	短期借入金	30,226,930
仕掛品	27,715,774	1年内返済予定の長期借入金	1,200,000
原材料及び貯蔵品	17,037,980	リース債務	294,402
前渡金	150,926	未払金	1,105,320
前払費用	599,248	未払費用	544,949
未収入金	2,793,486	未払法人税等	216,164
未収消費税等	520,946	前受金	6,191,078
その他	911,516	預り金	319,945
貸倒引当金	△ 2,651	従業員預り金	518
流動資産合計	85,409,537	賞与引当金	1,088,379
固定資産		工事損失引当金	3,640,065
有形固定資産		設備関係支払手形	255,109
建物	4,194,230	その他	1,236
構築物	158,987	流動負債合計	66,585,522
機械及び装置	965,884	固定負債	
車両運搬具	9,844	長期借入金	3,500,000
工具、器具及び備品	714,134	リース債務	579,555
土地	2,439,048	退職給付引当金	5,354,552
リース資産	324,832	損害補償損失引当金	987,196
建設仮勘定	118,789	長期未払金	252,207
有形固定資産合計	8,925,750	固定負債合計	10,673,511
無形固定資産		負債合計	77,259,033
ソフトウェア	1,107,949	純資産の部	
ソフトウェア仮勘定	130,939	株主資本	
リース資産	602,973	資本金	5,359,893
技術ノウハウ	811,580	資本剰余金	
電話加入権	11,994	資本準備金	4,367,993
その他	472	資本剰余金合計	4,367,993
無形固定資産合計	2,665,908	利益剰余金	
投資その他の資産		利益準備金	318,000
投資有価証券	180,120	その他利益剰余金	
関係会社株式	5,528,426	別途積立金	1,920,000
長期前払費用	45,289	繰越利益剰余金	17,651,176
差入保証金	73,842	利益剰余金合計	19,889,176
繰延税金資産	4,120,626	自己株式	△ 31,175
その他	82	株主資本合計	29,585,887
投資その他の資産合計	9,948,387	評価・換算差額等	
固定資産合計	21,540,046	その他有価証券評価差額金	104,663
資産合計	106,949,584	評価・換算差額等合計	104,663
		純資産合計	29,690,551
		負債及び純資産合計	106,949,584

損益計算書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		83,528,487
売上原価		75,304,872
売上総利益		8,223,615
販売費及び一般管理費		6,515,926
営業利益		1,707,688
営業外収益		
受取利息	10,828	
受取配当金	434,834	
助成金収入	180,520	
その他	101,620	727,804
営業外費用		
支払利息	289,250	
為替差損	114,663	
売却債権譲渡損	126,958	
支払補償費	266,108	
その他	57,937	854,918
経常利益		1,580,574
特別利益		
受取保険金	60,000	60,000
特別損失		
固定資産処分損	58,264	
減損損失	15,125	
災害損失	13,306	
品質関連損失	207,490	294,187
税引前当期純利益		1,346,386
法人税、住民税及び事業税	216,826	
法人税等調整額	90,519	307,345
当期純利益		1,039,041

株主資本等変動計算書

(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	5,359,893	4,367,993	4,367,993
当期変動額			
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)			
当期変動額合計	—	—	—
当期末残高	5,359,893	4,367,993	4,367,993

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益剰余金				利益剰余金合計		
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	318,000	1,920,000	17,148,637	19,386,637	△ 30,968	29,083,556	
当期変動額							
剰余金の配当			△ 536,502	△ 536,502		△ 536,502	
当期純利益			1,039,041	1,039,041		1,039,041	
自己株式の取得					△ 207	△ 207	
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	—	—	502,538	502,538	△ 207	502,331	
当期末残高	318,000	1,920,000	17,651,176	19,889,176	△ 31,175	29,585,887	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	166,007	50,597	216,605	29,300,161
当期変動額				
剰余金の配当				△ 536,502
当期純利益				1,039,041
自己株式の取得				△ 207
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△ 61,344	△ 50,597	△ 111,942	△ 111,942
当期変動額合計	△ 61,344	△ 50,597	△ 111,942	390,389
当期末残高	104,663	—	104,663	29,690,551

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2020年5月27日

株式会社ジャムコ
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指有限責任社員 公認会計士 新井達哉 ㊞
業務執行社員

指有限責任社員 公認会計士 金子勝彦 ㊞
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ジャムコの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ジャムコ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

会計監査人の監査報告

独立監査人の監査報告書

2020年5月27日

株式会社ジャムコ
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 新井達哉 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 金子勝彦 ㊞
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ジャムコの2019年4月1日から2020年3月31日までの第80期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 監査人が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第80期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、当期の監査方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、当期の監査方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受けるとともに、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。更に、社外取締役と定期的に意見交換会の場を設け、情報の収集に努めました。又、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。又、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。又、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

なお、事業報告に記載のとおり、2019年8月20日付で受領した業務改善命令については、監査役会として、第三者による特別調査委員会からの提言を踏まえた再発防止に係る諸施策の内容及び実施状況を確認してまいりました。これら確認結果も踏まえ、当該内部統制システムの整備・運用状況については、継続的な改善が行われていると判断しております。監査役会として再発防止に係る諸施策が着実に実行されるよう引き続き注視してまいります。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

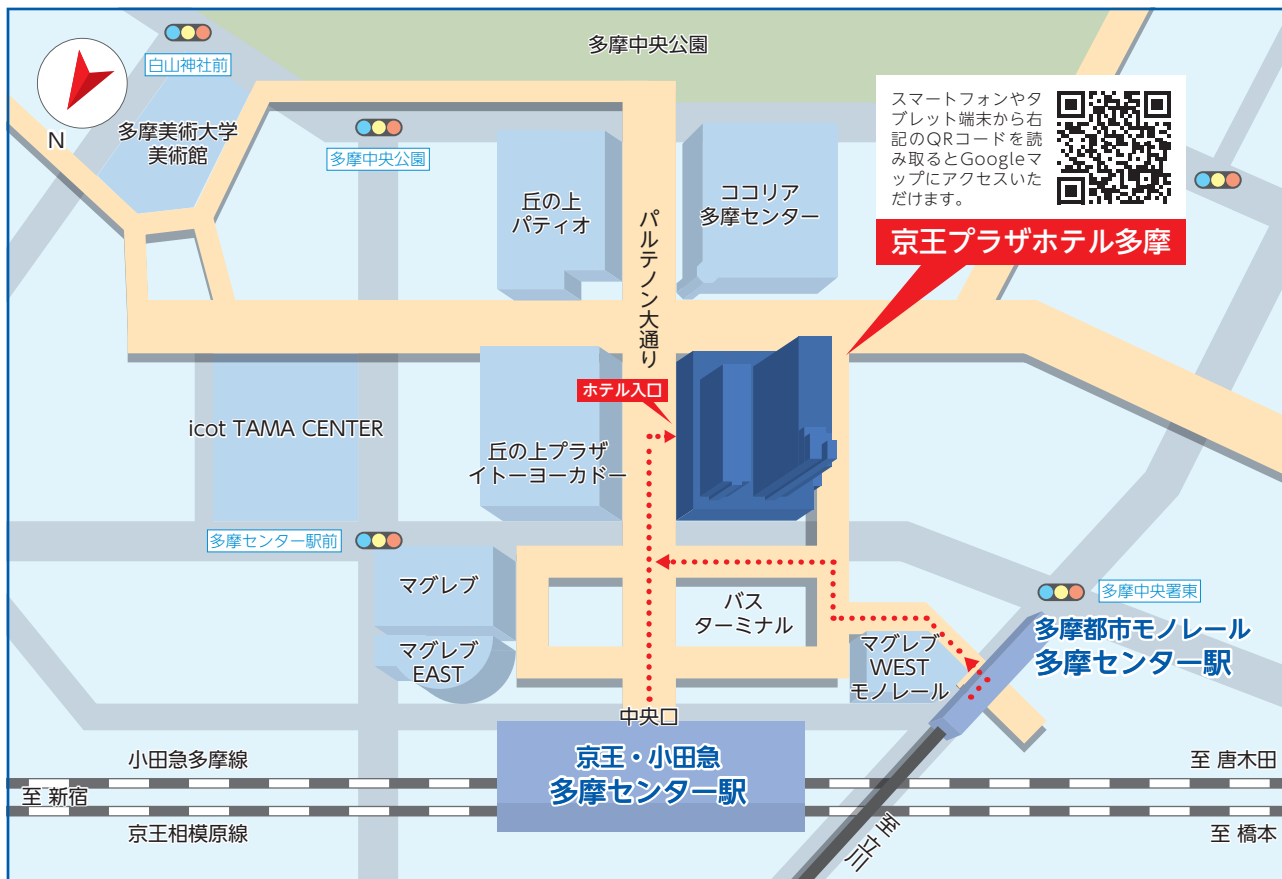
2020年5月28日

株式会社ジャムコ 監査役会
 常勤監査役 磯 上 範 好 ㊟
 常勤監査役 蕪 木 昇 ㊟
 社外監査役 高 橋 均 ㊟
 社外監査役 渡 邊 浩一郎 ㊟

以 上

株主総会会場 ご案内図

会場 東京都多摩市落合一丁目43番地
京王プラザホテル多摩3階「白鳳」
電話 042-374-0111 (代)



交通のご案内 京王相模原線 「京王多摩センター駅」 中央口下車 徒歩 約 3分
小田急多摩線 「小田急多摩センター駅」 西口下車 徒歩 約 3分
多摩都市モノレール 「多摩センター駅」 下 車 徒歩 約 3分

歩行者専用道路内
徒歩での経路

●お車でのご来場はご遠慮ください。 ●会場にご入場の際には、同封の議決権行使書用紙をご用意ください。

株式会社 **ジャムコ**

<https://www.jamco.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。